

会務報告

I. 日本珪藻学会第35回大会

日本珪藻学会第36回大会が、平成27年5月9日(土)と10日(日)の両日、東京大学弥生キャンパスの弥生講堂アネックス(東京都文京区弥生1-1-1)で加藤和弘氏を大会会長として開催された。大会参加者は70名、講演は口頭発表が17件(後述するシンポジウムにおける発表を除く)、ポスター発表が5件であった。

第1日目、まず5件のポスター発表が行われ、その後休憩を挟んで化石珪藻および堆積物中の珪藻に関する口頭発表7件が行われた。一連の発表および質疑応答の終了後、会場となった弥生講堂アネックスの前で記念撮影が行われた。その後、平成27年度の総会が大会会長を議長として開催され、報告と審議が行われた。総会後には、同じ弥生キャンパス内のレストラン「アブルボア」で懇親会が開催された。51名の参加者があちらこちらでグループを作って懇談し、たいへんな賑わいだった。

第2日目の午前中には、海産珪藻、淡水産珪藻、生態、さらには応用的研究の成果までを含む10演題の口頭発表が行われた。午後には、「珪藻の種とは何か」とのテーマでシンポジウムが行われ、珪藻学における「種」の扱いの変遷、形態や微細構造から見た「種」、休眠胞子から見た「種」、「種」と分子系統、分類学の成果を応用する立場から見た「種」、珪藻化石における「種」、という6つの立場から、それぞれの「種」の考え方について発表していただいた上で、総合討論を行った。「種」とは何か、というのは生物学のどの分野でも非常に根源的な問題であり、誰もが逃れたいものである一方で議論が難しいテーマでもある。最初は、個別の発表に対する質疑が中心であったが、水質モニタリングの立場から実用的な種概念の必要性を強調する意見が示されると白熱した議論となり、それぞれの立場から活発な意見の表明がなされた。意見の収斂には至らなかったが、「種」について様々な立場があり、それぞれにおける考え方の違いと共通点を深く認識する場になったのではないだろうか。

こうして大会は、盛会のうちに2日間の日程を無事終了することができた。最後に、本大会の準備ならびに運営に協力していただいた東京大学、東京学芸大学、放送大学の珪藻学会会員や学生のみなさまに、心より感謝申し上げます。

II. 平成27年度運営委員会

平成27年度日本珪藻学会運営委員会が、平成27年5月9日(土)11時30分より東京大学農学部1号館生圏システム学専攻会議室において開催された。出席者は、南雲保(会長)、長田敬五(運営委員・庶務幹事)、松岡孝典(会計幹事)、出井雅彦(運営委員・編集委員長)、齋藤めぐみ(運営委員)、澤井祐紀(運営委員)、洲澤多美枝(前会計幹事)、鈴木秀和(運営委員)、須藤斎(運営委員)、伯耆晶子(運営委員)、真山茂樹(運営委員)の10名であった。

【報告事項】

- 1) 会員状況
- 2) 会計状況
- 3) 編集委員会関係状況
- 4) バックナンバー保管先
- 5) 学会誌 Diatom vol. 30 の寄贈先(12件)
- 6) 大会および研修会の開催地
- 7) 日本分類学会連合参加報告
- 8) 日本珪藻学会論文賞
- 9) その他

【審議事項】

- 1) 学会誌 Diatom の編集体制について
編集委員長から新しい編集委員会の体制が報告された。電子出版に伴う編集業務の増大を考慮して副編集長1名の増員が提案されたが、今年度は、各委員でなるべく助け合って業務を行うようにし、副編集長は定めないことになった。
- 2) J-Stageでの掲載順について
原著は受理した論文から掲載し、総説等は後回しにすることになった。これは投稿規定に明記することも決まった。
- 3) 平成26年度決算案と平成27年度予算案について
これらを総会に諮ることが決定した。
- 4) その他
日本珪藻学会功労賞の対象者として、これまで珪藻研究や学会誌の編集に大きな貢献をされてきた後藤敏一氏と学会のホームページ管理に尽力されてきた豊田健介氏が推薦され、全員一致で両者の功労賞が決定した。
学会ホームページの管理を業務とする広報担当幹事の新設を総会に諮ることが決定した。

III. 平成27年度総会

平成27年度総会が、第36回大会会期中の5月9日(土)に加藤和弘大会会長を議長として大会会場(東京大学弥生講堂アネックス)で開催された。

【報告事項】

- 1) 会員状況
普通会員188名(一般会員162名、学生会員15名、奨学会員5名、家族会員2名、海外会員4名)、名誉会員2名、団体会員4名、賛助会員3名(個人1名、団体2名)、合計197名(平成27年4月現在)。
- 2) 会計状況
平成26年度の決算が報告された。監査の結果、当該決算が適正であることが報告された。
- 3) 編集委員会関係状況
編集委員長より編集委員会の新体制について報告され、Diatom 31巻の編集業務における進捗状況が説明された。
- 4) 次年度大会および研究集会について
学会会長より次年度大会が神戸大学で開催すること(詳細はHPに掲載予定)、および次年度の研究集会については検討中であることが報告された。

5) 日本分類学会連合総会参加報告

日本分類学会連合第15回総会と公開シンポジウムが、平成27年1月10、11日に上野の国立科学博物館で開催され、南雲 保（会長）と松岡孝典（幹事）が出席した。昨年に引き続き、海外諸国からの採集標本持ち出しが非常に厳しくなっているとの報告がなされた。

6) 平成27年度日本珪藻学会論文賞、最優秀発表賞について

学会誌 Diatom 29 巻、30 巻に掲載された論文を対象として選考した結果、二次選考の得票が過半数に達する論文がなかったため、本年度は論文賞の表彰を見送ることが報告された。

本大会（第36回大会）における最優秀発表賞は選考中であること、本年度の研究集会でも同様な選考を実施して得票率の多い発表を来年度大会で表彰することが報告された。

7) その他

出井雅彦会員より本年度の研究集会（第35回研究集会）の案内がなされた。

【審議事項】

1) 学会誌 Diatom の編集体制について

編集委員長より編集委員会の新体制について説明され、今年度は副編集長をおかずに業務を遂行することが承認された。

2) 平成26年度決算

会計監査を受けた以下の決算が承認された。

平成26年度決算（平成26年1月1日～12月31日）

(収入)		(支出)	
前年度繰越金	4,070,807	印刷費 (29 巻)	1,361,973
会費	780,000	発送費	55,519
会誌売上代金	78,750	編集費	20,170
別刷代 (28 巻)	61,860	庶務雑費	48,715
超過頁代 (28 巻)	186,000	日本分類学会連合分担金	10,000
受取利息	800	J-STAGE 登録委託 (25~27 巻)	0
雑収入	1,260	次年度繰越金	3,683,100
合計	5,179,477	合計	5,179,477

3) 平成27年度予算

以下の予算案が提案され、予算が承認された。

平成27年度予算（平成27年1月1日～12月31日）

(収入)		(支出)	
前年度繰越金	3,683,100	印刷費 (30 巻・30 巻別冊)	720,000
会費	1,000,000	発送費	100,000
会誌売上代金	80,000	編集費	30,000
別刷代 (30 巻)	18,900	庶務雑費	110,000
超過頁代 (30 巻)	37,500	日本分類学会連合分担金	10,000
受取利息	1,000	J-STAGE 登録委託 (25~27 巻)	46,100
雑収	2,000	次年度繰越金	3,806,400
合計	4,822,500	合計	4,822,500

※庶務雑費には講演者招聘助成金を含む。

4) その他

功労賞の対象者として、運営委員会より推薦された後藤敏一氏と豊田健介が承認され、表彰は次年度の大会で執り行うことが報告された。

学会ホームページの管理を業務とする広報担当幹事を新設することが賛成多数で決定した。

IV. 日本珪藻学会第35回研究集会

日本珪藻学会第35回研究集会が、平成27年11月7日（土）・8日（日）の両日に、日光市の日光交流センター「風のひびき」（栃木県日光市所野 2854）を会場として、珪藻ゼミが世話人となり開催された。発表は、口頭発表10件、ポスター発表19件、そして外来珪藻をテーマとしたシンポジウム発表4件と招待講演1件、計34件であった。集会参加者は64名に及び、その半数が学生であったこともあり、若さと活気にあふれた賑やかな研究集会となった。参加者のほとんどが交流センター内の施設に宿泊したが、定員を超える申し込みがあったため、世話人の一部は外部のホテル等を利用した。第1日目は午後からの開催で、まずシンポジウム講演から始まった。今回のシンポジウムは「外来珪藻」がテーマとなった。外来種（外来生物）の移入は決して今に始まったことではないが、しばしば話題になり、生態系への影響が懸念されている。近年珪藻でも外来種の存在が報告され、今後河川の生態系で問題となる可能性もあり、この機会に外来珪藻についての情報と認識を共有しようと言う意味で、このシンポジウムが企画された。そこで、外来生物とはどんな生物か、どのような経路でそれらが移入したのか、と言う基本的なことを学ぶため、一般財団法人自然環境センターの今井 仁研究員に、「外来種問題概論」と題して講演を依頼した。そもそも外来種とは何か、から始まり、外来種の現状や行政的取組など、幅広い内容で外来種問題について講演がなされ、活発な質疑応答が行われた。その後4題のシンポジウム講演が行われ、外来珪藻について具体的例が紹介された。引き続きポスター発表が行われた。それぞれ2、3分の発表を行い、一通りの発表後、各自それぞれのポスターの前での質疑応答で行われ、活発な議論がなされた。ポスター終了後、施設内の食堂で夕食をとり、その後セミナー室に用意されたオードブルとお酒を囲み懇親会が行われ、夜が更けるのも忘れ珪藻談義に花を咲かせた。今回の懇親会は、学生1000円と予算を低く抑えたため、一般参加者の方々にお酒とおつまみ等のカンパをお願いした。多くの参加者が快くカンパに応じくださり、お陰様で有り余るお酒とおつまみを用意することができた。この場を借りてあらためてお礼を申し上げる。

第2日目の午前中は口頭発表が行われた。多岐にわたる興味深いテーマの発表が続き、質疑応答が盛んに行われ、全ての発表が終了し、閉会した。2日目は生憎の小雨となったが、閉会後は会場近くの日光東照宮周辺等を散策して、紅葉の盛りを迎えた日光を堪能して帰られたようであった。

本大会は、故小林弘先生に教えを頂いた珪藻ゼミのメンバーが世話人となり、準備と運営を行った。予想を遙

かに超える多くの学会員が遠路足を運んでくださり、大変盛会な二日間となった。参加して下さった皆様に心より感謝を申し上げる。

V. 平成 27 年度編集委員会

平成 27 年 5 月 9 日 (土) 10 時 30 分より、東大農学部 1 号館地下 1 階生圏システム学専攻会議室にて開催された。出席者は、南雲保 (会長)、出井雅彦 (編集委員長)、大塚泰介委員、佐藤晋也委員、澤井裕紀委員、齊藤齋委員であった。

【報告事項】

1) Diatom 第 30 巻

特集号「珪藻と古環境」(澤井裕紀責任編集)：論文 8 編 (総説 6 編, 原著 2 編), 索引の計 125 頁。

通常号：論文 6 編 (原著 6 編), 雑報 4 編, 書評, 国際珪藻シンポジウム参加報告 2 編, 第 35 回大会・第 34 回研究集会のプログラムと要旨, 会務報告, 英文論文の和文摘要で計 118 頁。

- ・表紙のタイトルを簡略化した。
- ・論文の掲載ページを受理順に変更した。但し, 原著論文を先に公開することが望ましいので, 必ずしも受理順とならないこともあるので, そのことを著者に周知する。
- ・引き続き印刷を(株)国際文献印刷社に依頼した。

2) Diatom 掲載論文のウェブ上での公開について (報告)

30 巻より, 受理された論文から順に PDF を J-Stage にアップしている。28 巻掲載の全論文について, 全文 PDF の J-Stage のアクセス権を, 2014 年 12 月末日よりフリーアクセスとした。また, 即時公開権が購入された論文については, 29 巻以降の掲載分についてもフリーアクセスとしている。

3) 第 31 巻編集状況 (報告: 2015/5/8 現在)

昨年末に受理した原著 1 編あり。受付審査中の原著論文が 2 編, 研究ノートが 1 編。

4) 今年度から編集委員会体制

編集委員長：出井雅彦 (文教大学)

編集委員：阿部信一郎 (茨城大学), 大塚泰介 (滋賀県立琵琶湖博物館), 佐藤晋也 (福井県立大学), 澤井裕紀 (産業総合研究所), 須藤 齋 (名古屋大学)

【審議事項】

1) 第 34 回大会のミニシンポジウムと関連した「珪藻の細胞学」について。

企画者に一任し, 31 巻で特集を組むことを当面の目標としながらも, 出版時期については柔軟に対応する。

2) 編集委員体制について

昨年度の提案で, 編集委員会の体制に副編集委員長 1 名を加えることが承認されたが, 今年は置かない。ホームページ委員は, これまで豊田健介氏が勤めてきたが, 須藤齋編集委員が引き継ぐ。豊田氏には功労賞を贈ることを提案。

VI. 平成 28 年度大会および研究集会開催予定

日本珪藻学会第 37 回大会

開催予定日：2016 年 5 月 14 (土)・15 (日)

神戸大学六甲台第二キャンパス瀧川記念学術交流会館)

<http://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/rokko/rokkodai-dai2.html>

世話人：川井浩史 (神戸大学)

日本珪藻学会第 36 回研究集会 (詳細未定)

開催日予定日：平成 28 年 10 月予定

場 所：山形県蔵王温泉

世話人：Richard W. Jordan (山形大学)